

## 1 中期学校経営方針

### 学校経営中期取組目標

- 教職員、保護者、地域、関係機関等あらゆる教育資源を活用した活気ある学校作りを目指します。
- ・授業など教育活動の充実を通じ、主体的に学び、自ら課題解決に向け、意欲的に取り組む態度を育てます。
  - ・様々な人との関わりを通じ、お互いに認め合い、尊重しながら豊かな人間関係を築く態度を育てます。
  - ・自ら取り組む健康増進の為の行動を通じ、生涯に渡り、心身共に健やかに生きるための資質や能力を育てます。
  - ・地域や社会と接する機会を通じ、自分の役割や働く事の意義を理解し、他者と協働する態度を育てます。
  - ・あらゆる教育機会を通じ、自己有用感を高め、自信をもって将来の夢や目標を目指す態度を育てます。

## 2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

### (1) 学力の概要と要因の分析（平均との差を見る。課題⇒要因⇒方向性）

令和2年度は学力調査が実施できていないため、平成29年度から令和元年度の横浜市学力学習状況調査の結果より、学年によって学習意識、生活意識に若干の差はあるが、全体的に意欲・意識ともに低めではあるが、徐々に学力、学習意識が向上していることが分かる。

生徒は、友人との交流や部活動などに積極的に参加しており、家庭生活も規則正しく行っていることが多い。一方で、勉強に苦手意識があること、自分から発表できる生徒が少ないこと、家庭での学習時間が短いなど課題が見られる。教員が反復学習による基礎学力の定着を図り、生徒の学習習慣の確立と、生徒の個々の課題を事前に提示したうえで、授業を焦点化し、理解すべき目標をわかりやすく設定し、生徒に具体的な学習内容を提示していくことが必要である。

### (2) 「子どもの社会的スキル横浜プログラム」による分析

本校の学校生活についてのアンケートの学級分布図を見ると、自分づくりのスキルに多少、開きのあるクラスが多かった。自分の考えを持ち、自他の考えや違いを認め合うことのできるようなスキルを、もう少し高める必要がある。その為には、各教科において自己肯定感や自己有用感を一人ひとりが感じられる授業づくりが必要である。生徒一人ひとりが安心して取り組める授業環境づくりをさらに推進することが求められる。具体的には、生徒一人ひとりが理解しやすい工夫した授業展開。褒めて伸ばす授業のさらなる推進。失敗してもそれを恐れず、お互いを認め合える授業環境づくり。

このようなさらなる環境改善から、自分の意見をもとに自信をもって、授業や話し合い活動への前向きな取り組みにつながると思われる。一人ひとりが友人の意見を尊重し、自他を認め合いながら自分づくりのスキルの向上を高めあえるような授業展開を工夫していきたい。

- 国語：どの学年も5観点中3観点以上で大幅な伸びが見られた。知識については、共通して市平均を下回っているため、今後授業課題の見直し等で改善を図る必要がある。
- 社会：どの観点でも学力の底上げを達成できている。日常的にテレビや新聞などでニュースにふれる機会が少ないので、社会に開かれた学習内容が求められる。
- 数学：各教科の中では、学習意欲も比較的高く、3年生は市平均を上回っている。しかし、見方や考え方について課題があるので、身につけた知識や技能を組み合わせ活用できるようにする必要がある。
- 理科：どの学年も理解力はあるが、知識技能を定着させること・それを活用して深い学びにつなげることが課題と考えられる。3年間で育む資質・能力を見通しを立ててカリキュラムマネジメントを行う必要がある。
- 外国語：英語に関する関心は高い。一方、書く、話すといった表現の能力が低い。文法事項の定着や、語彙の強化を図り、表現の能力向上に努める必要がある。

### (3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて）

「1日にどのくらい勉強しますか」の質問では、3年生では、半数が1時間以下と回答している。また、ほとんど勉強しないがおよそ3割回答していることも含めて考えれば、学習習慣の確立が大きな課題である。学年が上がるにつれて、学習時間は増えているが、さらに学習習慣の確立のために、家庭での学習環境や学習支援のプログラムを整備する必要がある。

「学校の授業がわかりやすい」の問いについては、学年が上がるにつれ、「よくわかる」が減少している。授業の焦点化や学習の達成感を得る授業を行うことで、学習意欲や自己肯定感の向上を図る。

「授業で自分の考えを発表していますか」の問いでは、「していない」の回答が多い。日々の授業を含む、各学習活動において言語活動を重視し、思考力や表現力を養うよう進めていきたい。他者と考えを交換したり、自身の考えをまとめたりする中で自ら主体的に学び、課題解決に向けて意欲的に取り組む態度を育てる。

### 3 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野		取組目標
確かな学力	担当 学習指導部	3年間で本校生徒に身につけさせたい力を明確にすることで、見通しをもった授業づくり、授業実践をする。

#### (1) 学校組織としての共通の取組

- ① 3年間で本校生徒に身につけさせたい力を4つとする。年度ごとに重点化を図り、取組を進める。  
 「自己を理解し、自分の良さを発揮する力」(R3年度重点目標)  
 「他者を理解し、共に高め合う力」(R3年度重点目標)  
 「多様性を認め、信頼関係を築く力」 「自ら目標に向けて行動する力」
- ② 上記の力を育むために学校組織として次の取組を共通して行う。
- ・ 言語活動の充実を図り、生徒が自らの意見や考えを他者に伝える機会を確保し、主体的で対話的な深い学びの支援を図る。
  - ・ 教室環境や授業のユニバーサルデザイン化を進め、「誰にでも分かりやすい授業」の実践を目指す。

#### (2) 令和3年度 学年・教科等としての具体的取組

	各教科で育成を目指す身につけさせたい力	具体的取組	
		前期	後期
国語	他者を理解し、ともに高め合う力	目標(目指す姿)に照らした言語活動(学び合い)や、振り返りの充実により認知した自己の良さを他者との関わりの中で発揮する大切さを感じさせ、日常生活にいかせるように指導を実践する。	
社会	自己を理解し、自分の良さを発揮する力	社会的事象について基本的な事柄を理解し、そのことと自らの生活をつなげて捉えることができるような発問をする。	
数学	自己を理解し、自分の良さを発揮する力	授業の最初に前時の学習内容を確認し、基礎・基本の定着を図る。振り返りを定期的に行い、自己課題を明確化し、主体的な学習態度を養う。	
理科	自ら目標に向けて行動する力	振り返りカードを中心に、自身の気付きや身に付いた力を確認するとともに、そのあとの自分の課題を見つけ、改善の方法を考える時間をつくる。	
音楽	他者を理解し、共に高め合う力	協同しながら音楽表現を生み出す活動を進める中で、表現の良さや感じ方の違いを互いに認め合う授業を展開する。	
美術	自ら目標に向けて行動する力	自身が表したいことを主題にしたり、根拠をもってよさや美しさを考えたりすることを重視した学習や振り返りを展開する。	
保健	他者を理解し、共に高め合う力	単元ごとに自己や仲間の課題を思考、判断し、解決のために自ら行動する。仲間と課題を共有できるように言語活動の充実を図る。	
技家	自己を理解し、自分の良さを発揮する力	題材より実生活に結びつけた学習を通して、実生活と結び付け、自己を理解し、自分の良さを発揮する力を養う。	
外国語	他者を理解し、ともに高め合う力	単元学習から異文化理解、正しい会話表現を理解し、言語活動を通して実際に他者のことを考えながら、コミュニケーションを図る能力を高めることができる授業展開を行う。	
特活	他者を理解し、共に高め合う力	主体性・人間関係形成・社会参画を柱に、学級活動と行事を関連させた活動を行う。	
道徳	他者を理解し、共に高め合う力	自分自身に関すること「自主、自律」人との関わりに関すること「おもしろい、感謝」の視点を入れて、自他の良さを認め合える授業を展開する。	
総合	自ら目標に向けて行動する力	教科で学んだ知識や技能を活用して、探求的で協力的な学習を行えるような授業を展開する。	
個別級	自己を理解し、自分の良さを発揮する力	成功体験を重ね、自信を付けていく中で自己の特性を受容し、より良い生活を送ろうとする意識を育てる。	

